

2023年度

解答用紙 適性検査Ⅱ

(解答例)

受検番号	氏名	得点
		※

※のらんには、記入しないこと

1

[問題 1]

(あ) 9	(い) 7
(う) 1	(え) 3

※

(お) 4

※

(か) 5	(き) 243
-------	---------

※

(く) 59049

※

(け) 3

※

(こ) 4

※

(さ) ー (1)

※

[問題 2]

(A) 【解答例】 $3^{10} = 3^5 \times 3^5 = 243 \times 243$

※

[問題 3]

(B) 【解答例】 2023 ²⁰²³ の一の位は 3 を 2023 回かけた数字の一の位と同じになる。 3 を繰り返しかけるかけ算では、一の位は 4 種類ずつと繰り返され、 2023÷4=505 あまり 3 となるので、3 ²⁰²³ の一の位は「3 → 9 → 7 → 1」の 3 番目と同じ 7 となる。 よって、2023 ²⁰²³ を 5 で割った余りは、7 を 5 で割った余りに等しいので 2 となる。

※

2

〔問題 1〕

(1)

小麦

※

(2) 【解答例】日本は輸入小麦のほとんどをアメリカ・カナダ・オーストラリアのものでまかなえているので、今後の日本における流通量もそれほど心配はないといえる。

(【別解例】ロシアによるウクライナ侵攻が今後も続けば小麦の価格がさらに上昇するので、結果としてアメリカやカナダ産の小麦の価格も上昇して、日本の流通量にもマイナスが生じる可能性がある。)

※

〔問題 2〕

7

※

〔問題 3〕

【解答例】政治体制として、民主主義的な国家よりも、独裁的な国家の方が多い。

(【別解例】現在、「選挙による独裁」を政治体制にしている国が最も多い。)

※

〔問題 4〕

【解答例】核弾頭数に関しては、核兵器拡散防止条約に加盟して核兵器の所有が認められているアメリカ・ロシア・フランスなどの欧米諸国は減少傾向にあるが、逆に非加盟国のインド・パキスタンなどのアジア諸国は増加傾向にある。

※

〔問題 5〕

【解答例】「専守防衛」は、相手国から実際に日本が攻撃を受けて初めて軍事力を使用する防衛体制であるが、「敵基地攻撃能力（反撃能力）」は、相手国が日本に対して攻撃段階に入ったと確認できれば、日本から相手国に反撃できるという点に明らかな違いがある。

※

3

[問題 1]

(1)

天然ガス、石油、石炭

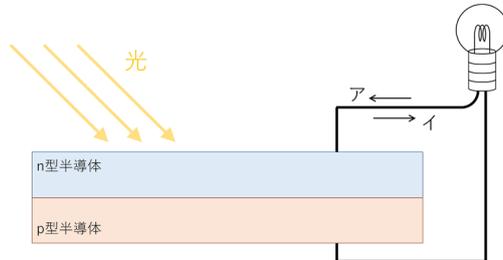
※

(2) [向き]

ア

[理由]

n型半導体に蓄えられた電子が、p型半導体の正孔に向かって流れる。電流は電子の流れとは逆向きに流れるので、アとなる。



※

[問題 2]

(1)

太陽の出ていない夜や、悪天候の日に発電できない点である。

※

(2)

各国の人口密度は1km²あたり、ドイツが234人、イギリスが281人、フランスが119人、アメリカが34人、中国が152人中、日本は332人であり、主要国の中で人口密度の高い国といえる。人口密度が高いということは、国土に降り注ぐ日射量を人口で割った場合、国民1人あたりに割り当てられる発電量が少ないということであり、発電に向いていないといえる。

※

[問題 3]

(1)

東日本大震災における福島原子力発電所の事故により、地震の多い日本における原子力発電所の安全性が問題視された。原子力発電所の稼働が減った影響により、相対的に火力発電の割合が増えた。

※

(2)

(例) 原子力発電の危険性を許容し、火力発電の割合を減らしていくしかないと考える。まずは火力発電による化石燃料の消費、二酸化炭素排出量の増加を止めることが先決である。

※